

立山町立 釜ヶ瀬小学校

歩き、調べ、感じた人と水のつながり



立山町立 釜ヶ瀬小学校

校長：松下 美愉紀

指導教諭：長谷川かおる

発表児童：4年生(11名)



本校は、北アルプス「立山」のふもとに位置し、古くから登拝を目指して全国から集まつた人々の足跡が、今も道標や地蔵としてあちこちに残っている。また、学校周辺は、農村地帯で、東部の山林、西部の常願寺川と、水と緑が豊かな地域である。

児童数は82人の小規模校で、本年度で創立111年を迎える。敷地内には、黒松やヒバ、桜などの高木が茂り、毎年巣箱掛けを行うなど愛鳥モデル校として50年以上の歴史がある。



かまがふちの水みらいプロジェクト

自分たちの足で「釜ヶ瀬と水の今」を調べてきました。そしてその水を次世代に残すため未来に向けてできることを発表します。

長谷川 かおる 先生より

感性を高めながら、自分たちのくらしと水のかかわりについて考え、歩みだした子供たち

「かまがふちの水」について知るために、子供たちとともに地域を歩くことから始めた学習、「かまがふちの水 ぼく・わたしの水みらいプロジェクト」。地域の水巡りに何度も出かけ、自分たちで歩き、全身を使って感じたことは、子供たちの中に実感として残り、大きな財産となつた。そして、少しずつ地域に溢れる、恵まれた水への意識を高めていくことができた。

水みらいプロジェクトはまだ終わっていない。自分たちが住む地域には、素晴らしい水があることを、自分たちが感じてきたことを学校や地域の人に広め、伝えていく。朝、「先生、川の水が増えているよ。」という元気な声が子供たちから聞こえている。



考えたこと！感じたこと！

ぼく・わたしの水みらいプロジェクト

高塚 菜生（4年生）

わたしは、本番の発表が始まったしゅん間すごく気持ちよかったです。みんなの前で、自分たちの足で歩いて調べたこと、感じたことを発表することができとても楽しかったです。これから、川の近くに「ごみを捨てないで」「ごみを拾おう」のような看板を立てたり、川の環境をこわさないようにポスターやちらしを配ったりして、地域の人たちに伝えていきたいです。

安川 萌香（4年生）

わたしは、柄津川の水量について調べてきました。これから、冬の水の深さをはかり、春になるまで調べてみたいです。また、冬になり、寒いので魚がすごくにくくなります。教室で世話をしている魚の世話を続けていくのか、逃がした方がいいのか、みんなで考えていきたいです。



▲ポスターセッションで情報交換。



▲柄津川の水質調査。きれいな水に住む生き物が見つかりました。



▲見て、触って、冷たくておいしいと感じた井戸水。



▲用水の仕組みについてお話を聞きました。



▲黒谷川では、柄津川と違う生き物が見つかりました。



▲地域の方に井戸水についてインタビュー。



▲地域の人と生き物調査。たくさん魚が見つかりびっくり！

学習テーマの設定

地域にいろいろな水がある
すき通っていて、たくさんの生き物がすむ柄津川・黒谷川。どこまでもつながっている用水。夏は冷たく、冬はあたたかい井戸水。おいしい地下水をくみあげる水工場。かまがふちにはいろいろな水があります。



自分の足で歩き感じたい
どこへ行っても耳をますますと水が流れる音が聞こえてくる…そんな私たちの地域を、自分たちの足で歩いて、かまがふちの水の今を感じてきました。

学習の展開

水がきれいな柄津川

石がゴロゴロとある柄津川は、雨の後は石がかくれるくらい水量が増えます。生き物調査ではカワゲラやカワニナなどきれいな水にすむ生き物が見つかり、CODテストでも川の水がきれいだとわかりました。



つながる用水・安全な水道水
地域のあちこちで大小の用水がつながり、地域の方の協力で水を取り入れやすくする横江頭首口も見学しました。上水道管理センターでは水道水になる常願寺川の水が日本有数のきれいさだと教わりました。



人が作り変えた黒谷川

黒谷川は人の手で川底をコンクリートにして作り変えられた川です。柄津川より流れがゆるやかで水量の変化も少なく、たくさんの生き物がいてびっくり！生き物がすみやすいよう工夫して作られています。



昔も今も地下水を利用
まだ井戸水を使っている家が多く、地域の方に聞くと、昔から工夫して水を手に入れて生活してきたとわかりました。また水工場では地下150mから水をくみあげ、ペットボトルに入れて全国で売っています。

調べ感じたことを広めたい
きれいで、おいしく、生き物がすむかがふちの水を未来に残すためにできることは？水を大切に、川にゴミを捨てないよう呼びかけながら、人と水とのかかわりを学校や地域の人々に広めていきたい！

